こども病院

新病院の医療機能、整備場所などの方針決定

市は、こども病院の小児医療を充実させ、周産期医療に取り組むために整備する新しい病院の医療機能、規模、整備場所について、次のとおり方針を決定しました。今後、基本構想の策定など、事業化に向けて取り組んでいきますが、パブリックコメント（意見募集）や説明会を通じ、市民の皆さんに十分説明しながら進めていきます。【5・6面に続く】

新病院の医療機能

新病院は、平成20年6月9日の病院事業運営審議会の答申に沿って、次の4つの医療機能に取り組んでいきます。

①小児医療（高度）
集中治療が必要な小児や低出生体重児等を対象とした高度で先進的な医療で、こども病院の心臓外科や循環器科等は、全国でも高い評価を受けています。
新病院では、高度医療の更なる充実を図ります。

②小児医療（地域）
こども病院は、かかりつけ医から紹介を受けた、主として入院治療の必要な患者に対し、専門性の高い診療や検査を行う2次医療機関として、地域医療の中核的な役割を果たしています。新病院では、地域医療の充実を図ります。

③小児救急医療
こども病院は2次救急施設として位置づけられています。
新病院では、2次救急医療（入院治療を必要とする重症の小児救急医療）に加えて内科的な3次救急医療（生命の危機に関わる疾患や、複数の診療科領域にわたる治療が必要な重篤な疾患の小児救急医療）を担っていきます。1次救急（時間外診療）については、現在の急患診療センターとの役割分担のもとに取り組むことを検討します。

④周産期医療（新生児中心）
現在、先天性の病気を持つ胎児は、他の病院で出生後に、こども病院に搬送され、治療を受けています。新病院では産科を設置し、新病院内での出産を可能とすることで、出生と同時に新生児に対する必要な処置が行える体制をつくり、新生児集中治療室（NICU）や母体・胎児集中治療室（MFICU）などを充実させ、周産期母子医療センターの機能を有する病院とします。

新病院の規模

新病院では、高度医療の提供に必要な医療機器や設備に対応できる医療スペースや患者家族のためのスペースを確保します。
また、こどもが治療を受けながら生活し、教育を受け、成長していく場でもあることから、空間的なゆとりと適切なデザインおよび、周辺の緑豊かな療養環境を提供する必要があると考えています。

①医療機能別病床規模
下表参照。

②延床面積
病床規模を踏まえ、1床あたり100㎡で計算すると、2万3000㎡から2万6000㎡が見込まれます。

③駐車場
患者用として、最低300台規模の駐車場を整備します。夏休みなどのピーク時の必要分や職員用への対応分の台数は、引き続き検討します。

④ファミリーハウス
入院患者の家族宿泊用として、10から20室の整備を行います。民間事業者の導入も視野に入れて検討します。

⑤ヘリポート
救急患者搬送のためにヘリポートを整備します。

⑥敷地面積
以上のことを踏まえると、敷地として最低3㌶は必要と考えていますが、最終的な面積については、今後、基本構想策定時に将来の機能拡張への対応や、駐車場の規模などを考慮して決定します。

新病院の整備場所

新病院の整備場所は、平成19年12月の検証・検討報告書の方向性や、新病院の医療機能および規模を踏まえ、利便性、救急面、経済性、敷地の活用性、療養環境・周辺環境、まちづくりの視点から総合的に判断しました。

【適地とした理由】

●アイランドシティは、整形地で必要な敷地面積を確保できるため、施設の自由度が高く、機能の拡張も容易である。

●総合公園としてアイランドシティ中央公園があり、海と調和した環境と景観が形づくられ、良好な療養環境を確保できる。

●アイランドシティのまちづくりの基本概念の一つである「ふくおか健康未来都市構想」に基づいた快適な都市環境を創造する計画があり、アイランドシティ中央公園周辺には、既に医療機関や福祉施設が進出決定し、医療・福祉ゾーンが形成されつつある。

●土地単価が他の候補地と比べ安価である。

●都市高速ランプ（香椎浜）に近接しており、都市高速の利用により、市内各地から比較的短時間で移動が可能である。

ました。
特に、医療の質の向上・確保を図るという観点から、敷地の活用性と療養環境を重視しました。
その結果、アイランドシティ（アイランドシティ中央公園西側用地）が適地であると判断しました。

方針決定にあたって

新病院のあり方については、患者ご家族をはじめ、さまざまなお立場から種々のご意見をいただいてまいりました。このような中で、私は、こども病院の将来を考えるとき、その基本的な使命は何なのか、歴史的背景も踏まえながら原点に立ち返って考えていくことが重要だと思っています。

そもそも、こども病院は、昭和40年代に始まった、高度な医療を提供する小児専門病院を求める市民の声に端を発したものです。それが、医学界、マスコミなどを含めた全市的な気運へとつながり、当時の進藤市長や市議会のリーダーシップのもと、次代を担う子どもたちの健やかな成長を願う思いが、行政を超えた大きな力に結集し、実現したものです。

また、その際の、専門的かつ高度な医療を提供し、市域、県域の枠を超えて難病の子どもを救うという使命感に燃えた初代院長の合屋氏をはじめとする、関係者の高い志も忘れてはならないと思います。

私は、このような先人たちの熱い思いや高い志を忘れることなく、こども病院のより良い将来に向けて、真摯に取り組んでいくことが使命であると認識しています。

これまで、市民説明会や患者・家族説明会を実施する中で、こども病院の現在地やその近辺での整備を望むご意見をいただきました。

しかしながら、こども病院の歴史や使命、実績を考えるとき、市政および病院運営の責任者としては、まず病院の医療の質の確保および向上を基本とすべきだと考えます。その上で、利便性などさまざまな要素の充実に積極的に取り組むことで、市民の皆様のご要望に応えてまいりたいと思っています。

整備場所の選定に当たりましては、このような基本姿勢で検討し、方針を決定いたしましたが、こども病院がこれまで培ってきた全国トップレベルの医療水準を維持、向上させ、これからの時代を担う子どもたちを支えていくために、市民の皆様にはぜひともご理解いただき、ご支援いただきたいと考えています。

福岡市長 吉田宏

■医療機能別の病床規模

医療機能		新病院	現病院
周産期 ※1	新生児集中治療室（NICU）	10～ 12床	9床
	NICUの後方病床（GCU）	22～ 26床	10床
	母体・胎児集中治療室（MFICU）	3～ 6床	－
	産科	25～ 30床	－
小児・救急	小児集中治療室（PICU）	6～ 8床	6床
	PICUの後方病床（小児HCU）	24～ 32床	－
	一般病棟（救急・小児感染症含む）	140～146床	165床
感染症	1種・2種指定感染症病棟	－※2	24床
計		230～260床	214床

※1 妊娠後期から新生児早期まで（妊娠満22週から生後満7日未満まで）の期間の出産に関する時期を一括した概念を周産期といい、この時期に母体、胎児、新生児を総合的に管理して母と子の健康を守るための医療を周産期医療という。
※2 大学病院等で担ってもらう方向で協議中。

〈参考〉最近整備された小児専門病院の施設規模

	病床数（床）	延床面積（㎡）※1	1床当たり延床面積（㎡/床）	敷地面積（㎡）
長野県立こども病院	200	23,596	118	50,519
あいち小児保健医療総合センター	200	20,171	101	69,291
国立成育医療センター	500※2	64,578	130	75,504
宮城県立こども病院	160	18,313	115	41,162
北海道立子ども総合医療・療育センター	215	18,117※3	85	30,739※4
上記5病院の平均	255	28,955	110	53,443
参考：福岡市立こども病院	*214*	*15,416*	*73*	*16,795*

※1 病院本体の延床面積であり、職員宿舎、ファミリーハウス、駐輪場等の付属施設は含んでいません。
※2 オープン時（平成14年3月）の病床数。（現在は460床）
※3 地下駐車場6,499㎡を除いています。
※4 隣接する道有地（16,623㎡）を駐車場用地として借り上げた面積を含んでいます。

市政に関する意識調査にご協力を
地域活動やまちづくり、男女共同参画社会などについてのアンケートを行います。対象は、市内に住む20歳以上の人から無作為に選んだ4,500人です。対象者には調査票を郵送しますので、同封の返信用封筒で9月1日(必着)までに返送してください。 問広聴課☎711−4067 F733−5580